



YA 本研究会だより

2019.1
Vol.7

時は来た！！

本年度最後の、そして平成最後のピブリアバトル！

参加メンバーは YA 委員 3 名 & 司書 3 名。今回「小説禁止令」が出されたので、みなさん選書に苦勞したのではないのでしょうか？そんな恨みつらみもあって、さぞや死闘が繰り広げられたであろうバトルを制したのはこちら🐷



「ヤモリの指から不思議なテープ」石田秀輝／監修

アリス館 2011. 12 ¥1300 (504マ) 所蔵:本館、志摩館

〈内容〉

ヤモリはなぜ、壁や天井を歩き回れるのか？

なぜだろうと考え、諦めずに問い続けた結果、粘着テープやロボットが開発された。

自然に学ぶ技術、ネイチャーテク/ロジーを紹介する。

〈おすすめのポイント〉

自然は本当に偉大。人間が真似をしても、追いつけない神の領域があるのだと思えてならない。とまあ、"かべちょろ"をとっつかまえて、足の裏を拝んでみたくなる(笑)

解説がわかりやすい上、挿絵やつぶやきもかわいらしく、幅広い年齢層で楽しめる。

いつでも探求心を胸に、自然の扉を開いて、地球にやさしい未来の開発者を目指そう！

「顔二モマケス」水野敬也／著 文響社 2017. 2 ¥1450 (916ミ) 所蔵:二女館

〈内容〉

「見た目が 9 割」の現代社会で、幸せに生きるための方法とは？顔や外見に症状を持つ人たちが、人生に起きた出来事を乗り越えて幸せをつかんだ物語を、インタビュー形式で紹介。

〈おすすめのポイント〉

彼らの言葉がきれいごとじゃなく、今も悩んで、これからも悩んで生きて行くんだろう、と現実的だからこそ素直に感銘を受けることができました。つらい経験を乗り越え悩みに悩んだ警句の言葉が胸を打ちます。経験に裏打ちされた言葉の重さ。"感動ポルノ"嫌いな人でも素直に読んでよかったと思うことでしょう。



今回は2作品が同票でチャンプ本になりました！

おめでとうございます



他には「三日間の幸福」、「たのしく学べる！日本と世界の歴史年表」、「ありがとうわさびちゃん」、「アンネのことすべて」、「知られざる縄文ライフ」、「幸福の王子」(菅野綾子訳)、「この顔誰？」が紹介され、バラエティー豊かなバトルになりました。

…ちなみに「知られざる縄文ライフ」を紹介した司書のだんなさんの顔が縄文人の顔の特徴に当てはまるらしく「あなたは縄文人、私は弥生人」と言ったらけんかになったそうです。家でもバトルとはバトルーの鑑ですね



< ビブリアオバトルこぼれ話 >

今回の参加者は6名。投票は一人一票だから計6票。なのに総数7票ありました。



え！！どーゆうこと！？

まさか透明人間が…！ まさか生霊の仕業…！！ まさか、まさか、まさか…！！
と、室内に戦慄が走る中、だんなさんが縄文人に似ている司書が真相をつぶやきました。
「実はわたし2票入れたの…」

「えー、なんで！？したらイカンめえもん」「ダメやん」など、まさかの捻破りに非難の声に

だってどちらも入れたかったんだもん♡

と、幸せそうな本人。結局それ以上何も言えず会は終了しました。幸せの前には沈黙するしかないことをメンバーたちは学んだのでした。

さて、今回の YA 特集はバレンタインデーにちなんで「心恋（うらごい）」で、意味は「心の内で恋しく思うこと」。素敵なお言葉ですね。日本語の奥ゆかしさを感じます。

“心恋”と書いて“うらごい”と読む。そのココロは？

みなさんはどんな答えが浮かびましたか？

寒さに負けず素敵なおバレンタインデーをお過ごしください！

